

# 2016年度活動報告

## はじめに

2016年度をもって引退馬協会は設立から7期を終了しました。1997年の前身のイグレット軽種馬フォスターペアレントの会の時代から数えて二十年になります。昨年11月に出版した引退馬協会の活動記録集「馬の命を守れ！～引退馬協会活動記録～」は大きな反響を呼びました。

この一年は「引退馬」を取り巻く環境が大きく動いた年でした。引退馬を生かそうという流れは、もはや世界的な潮流と言えるまでになり、JRAも積極的な取り組みに着手しています。競馬を支えているのは馬 — そうした当たり前のことが当たり前のこととして考えられる世の中になりつつあるのは、大変感慨深く感じています。

アメリカ、イギリスなどでは大変大きなパイである乗馬の世界への引退競走馬の積極的な転用が主である一方、日本は乗馬の普及率が低く、乗馬人口も少ないことから、次の馬生へ繋ぐことが目的の海外の活動と比べると終生繋養に対する意識が高いと感じています。そうしたことから、引退馬への日本の取り組みは世界でも先進的な取り組みになるのではないかとこの予感がしています。

引退馬協会が関わった馬について、終生繋養を実現していくための「砦」として、鹿児島県のNPO法人ホーストラストとの連携を強めていくことを目的に、ホーストラストの正会員に名前を連ねることになりました。

2016年度は、馬と人のふれあい事業、啓発事業、フォスターペアレント事業、引退馬ネット事業の4つの事業を中心に活動を進めてきましたが、東日本大震災から6年が経ち、被災馬を支援してきた人たちにも大きな変化があり、支援することになりました。

大きな事業もあり、支出が多くなりましたが、ホームページやfacebookなどのSNSでの情報発信に加え、設立当初から続けてきた写真展や、各団体と連携しながら行ってきた様々な啓発活動によって、新規入会者や寄付が順調に増え続け、活動を推進する大きな力となっています。

支えていただいている会員の皆さま、ご寄付、ボランティアを通じご支援いただいている皆さまに心より御礼申し上げます。

各事業に関する詳細は以下に報告いたします。

## 1) 馬と人のふれあい事業

この事業は、フォスターホース(以下、FHと記載)たちの体験騎乗や、手入れ、ツアーなどでのふれあいを通じて馬の温もりに接し、馬という動物についてより知っていただき、親しんでいただくために行っています。

千葉のフォスターホースの預託先である乗馬倶楽部イグレットで、当会の前身である「イグレット軽種馬フォスターペアレントの会」の頃から重要なイベントとして行っている「FHと過ごす日」や、全国各地に点在している預託FHたちとの自由訪問でのふれあいの他、安全指導を含む馬との接し方・乗り方の講習会の開催、及び、FHにゆかりのある牧場や引退競走馬たちの見学ツアーやボランティアツアーを実施しています。また、「再就職支援プログラム」では、引退競走馬の初期馴致を行い、適材適所への譲渡活動を行っています。

### ① 「FHと過ごす日」の開催及び騎乗指導と講習会

2016年度は年度内に5回開催し、毎回大勢の方が参加してFH達とのふれあいを楽しめました。2016年8月には毎夏恒例の一品持ち寄りバーベキューとの同時開催とし、会員同志が親睦を深められていました。体験騎乗では、2016年度も、騎乗できる唯一のFHのハリマブライトと引き馬デビューをした新FHのコアレスピューマに加えて、乗馬倶楽部イグレットの馬たちにも協力していただきました。各馬の担当スタッフがFHや引退馬ネットのサポートホース、再就職支援プログラムを受けている馬の馬房前で普段の馬たちの生活を紹介して下さる馬房前トークも毎回好評で、このイベントを通じて会の活動について理解を深めて入会して下さる方も増えています。



騎乗体験



お手入れ体験



一品持ち寄りBBQ

### ② 乗り方指導・馬の接し方講習会(含む安全指導)

騎乗できるFHがハリマブライト一頭だけで、ハリマブライトはからだ小さく、乗り難いところがあり、誰でも乗れる馬ではないため、「FHと過ごす日」を除き、会員の騎乗は引き馬のみでした。2016年度に入って9月に新たなFHにコアレスピューマを迎えることができ、引き馬デビューはしたものの、まだ調教半ばのため本格的な騎乗いただけるまでにもうしばらく時間がかかりそうです。

### ③ 専門家を招いての指導

2016年6月の「FHと過ごす日」はゼンノプロロイで「ベストターンアウト賞」を受賞された元JRA厩務員の川越靖幸さんを講師にお迎えして、二度目のグルーミングミニスクールを開催しました。2017年5月の「FHと過ごす日」ではエクイエンス株式会社代表の藤本美芽さんにより、コアレスピューマをモデルにして、「馬が今、何を感じているか、馬にどのように接したらいいか」などのレクチャーが行われました。



川越さんによるグルーミングミニスクール



藤本さんによるレクチャー

④ 安全に接することができる馬の調教(引退競走馬再就職支援プログラム)

再就職支援プログラムは、引退した競走馬に対し、人とおだやかに暮らすための馴致調教を行うプログラムです。人間に曳かれてゆっくり歩くことができる練習や、乗馬としての常歩・速歩・駆歩をゆっくりと、指示通りにできる基礎的な運動などを通して、おおよその馬の性格や能力を把握して、それぞれの馬に適した場所へ譲渡することを目指し、譲渡する馬と譲渡先との mismatch を防ぐために大変有効なプログラムと考え、継続して行っています。

譲渡先が決まるまでに時間がかかることから、2016 年度からは頭につき6カ月を目安としています。前期からの継続馬を含めて5頭が卒業しました。



コンコルダンス



プリンセスアイズ



オキテ



ピーエムチャロッコ



レネレイド

	馬名	プログラム期間	調教施設	譲渡先(繋養先)
7期生	プリンセスアイズ	2015/9/2～2016/10/15	乗馬倶楽部イグレット	みどりのまきば黒澤牧場(福島)
8期生	オキテ	2016/2/26～6/5	乗馬倶楽部イグレット	北海道の育成牧場
9期生	ピーエムチャロッコ	2016/6/16～11/16	乗馬倶楽部イグレット	長谷川ライディングファーム(千葉)
10期生	レネレイド	2016/10/21～2017/5/30	乗馬倶楽部イグレット	個人(茨城県の乗馬クラブ)
11期生	コンコルダンス	2017/1/21～5/20	厩舎みちくさ	個人(福島・厩舎みちくさ)

2015 年度から継続してプログラムを受けていた 8 期生オキテは、2016 年度に入って間もなく卒業して北海道の育成牧場へ誘導馬として譲渡されましたが、約一年をそこで過ごしたのちに移動を余儀なくされました。2017 年 5 月末より 7 月まで生まれ故郷の静内坂本牧場に仮移動し、預託料を支払いましたが、8 月からは新たな譲渡希望者へ引渡し、繋養先はそのまま静内坂本牧場となる予定です。

また、同じく 2015 年度となる 2016 年 5 月に、仮移動先の事情から 7 期生のプリンセスアイズが乗馬倶楽部イグレットに戻ってきました。プリンセスアイズは運動することが過剰なストレスになることから、仕事をしないことが前提での譲渡となっていたためになかなか行き先が見つからず、10 月に福島県の新設の養老牧場「みどりのまきば」への移動となりました。

待機中だった 9 期生のピーエムチャロッコは、入厩後の調教が順調に進み、2016 年 11 月に千葉県長の谷川ライディングファームへの譲渡が成立しました。

10 期生のレネレイドは個人の方への譲渡が決まり、2016 年度に入った 2016 年 6 月に移動しました。

再就職支援プログラムの認知度が上がってきたことで待機馬が増えてきたことから、被災馬管理スタ

ッだった脇坂南さんが乗馬クラブ「厩舎みちくさ」を立ち上げたため、1月から11期生のコンコルダンスの調教の委託しました。幸い、現地で譲渡を希望される方がいらしたため、5月にプログラムを卒業し、そのまま厩舎みちくさへ預託されています。

一方、2015年8月に戻り調教を終えて二度目の卒業をし、譲渡先に戻っていたカエラチャンのフォローも行っています。

再就職プログラムの認知度の向上により、プログラムに馬を参加させたい方が増え、待機期間が発生しています。調教の委託や、身元のしっかりした引き取り先については直接仮譲渡をし、なるべく待機期間が発生しないように考えていく予定です。本プログラムの一番の目的である、譲渡された馬をきちんと見守っていくことには変わりません。

#### ⑤ 馬の養老施設視察・作業ボランティアツアーの実施

2017年4月14日から16日にかけての2泊3日にて、会員8名、事務局スタッフ2名の計10名が参加し、ホーストラスト鹿児島にて毎年恒例のボランティア&見学ツアーを開催しました。これまでは作業ボランティアとして行ってきたツアーですが、被災馬FHを預託していることから見学を希望する声も多くなり、ホーストラスト鹿児島にご協力いただいて、前々回から作業ボランティア、見学どちらかだけでも可能とさせていただいています。体調に合わせて作業を見合わせたり、1日だけの参加だったり、皆さん、それぞれの体力や都合に合わせて参加されていらっしゃいました。被災馬FHのハーモニイトセチャンやコッチャンとのふれあいや、エナコのお墓参り、繋養されている馬たちの朝夕の飼い付けやお手入れ、放牧地の石拾いなどの作業を手伝いました。今回も小西代表からホーストラストの今後の展望を伺ったり、高齢の馬主でも安心して馬を預託できるシステムの提案をさせていただいたり、親睦を深めたホーストラスト鹿児島のスタッフのみなさんと高齢馬の傷病管理についての情報交換を行ったり、作業のお手伝いを通じて、ホーストラストの活動について理解を深めることができました。



馬たちとのふれあい



お手入れ作業



吊り帯の説明

## ⑥ 引退馬による「馬のいる風景」を守る取り組み

千葉県、山梨県、福島県において「馬のいる風景」づくりの取り組みがそれぞれになされている中、引退馬協会としても積極的に関わりを持っています。9月22日～24日に開催された公益財団法人山梨総合研究所の主催の引退馬について考えるイベントでは、「観光振興等に向けた“引退馬の余生を考える”講演会」に沼田代表が講師として招かれました。



## ⑦ 北海道ツアー

9月9日～11日の2泊3日で、北海道ツアーを開催し、北海道のフォスターホース、サポートホースの訪問や参加者のみなさんの希望による種牡馬等の見学を行いました。また、フォスターホースの繋養先の牧場の皆さまを招いて親交を深めました。

なお、日高本線の不通により、見学が困難な方が増え、毎年ツアーを実施してほしいとの要望の高まりを受け、2017年度より、奇数年に1泊2日のミニツアーを実施し、偶数年にはこれまでの2泊3日のツアーを実施することになりました。



## ⑧ 引退馬繋養施設でのふれあいイベントの開催

実施しませんでした。

## 2) 啓発事業

年4回(季刊)発行している会報「RHA 通信」の他に、会の知名度を広め、引退馬についての関心を高めるためのインターネットでの情報発信や、引退競走馬の引退後の生活を紹介する写真展の開催など、さまざまな形での啓発活動を行っています。

### ① 引退馬に関する各種広報活動

2015年度も公式ホームページやFHたちの近況報告ブログを主に、facebookやtwitterを通じて、情報発信を行いました。特にリアルタイムで情報発信ができる facebook は効果が大きく、会員以外の方への啓発に加え、新規の入会や寄付へと繋げることができました。

## ② RHA 通信・活動報告書の発行・送付(印刷版・PDF 版)

正会員(一般会員・FP会員)・後援会員と、賛同会員のうち会報購読を希望された方に、8 月、11 月、1 月、5 月の年 4 回、「RHA 通信」を郵送、WEB 閲覧を希望した方へはメールで配信しました。2014 年度の活動報告は 2016 年 10 月にすべての会員と大口のご寄付をいただいた支援者宛にお送りしました。

なお、寄付して下さった方に寄付金の使途をお伝えすることを目的として、2016 年度以降にご寄付をいただいた方のうち、ご住所がわかる方すべてにこの活動報告をお送りすることになりました。

## ③ FH&サポートホース写真展

11 月 3 日に川崎競馬場近くの京急大師線港町駅前にて、12 月 29 日には大井競馬場近くの東京モノレール「大井競馬場駅」付近にて、大きなレースの開催に合わせ、会員主催により、里親制度の周知活動として FH や引退馬ネット各団体のサポートホースの写真展示、パンフレット・チラシの配布が行われました。本イベントは 2017 年度にも継続的に実施される予定です。



会員企画のイベントの開催については、新たにガイドラインを策定し、事前に企画書を添えた申請書と同意書を提出していただいた上で実施する許可を出して行っていただいています。

## ④ 引退馬をテーマにした企画展などのイベントの開催

2016 年度には実施しませんでした。一般財団法人ホースコミュニティの主催で 2017 年 7 月 26 日から東京・新橋の『Gate.J』で開催されるイベント「引退馬フォーラム」に参加します。

## ⑤ 引退馬協会活動記録集制作・販売

2016 年 11 月に「馬の命を守れ! ~引退馬協会活動記録~」を 1000 部、自費出版し、2016 年度中の売上部数は 719 部、関係者やメディア関係への進呈部数 138 部を加えると計 857 部を出荷しました。

当初は東日本大震災で被災した馬たちの支援活動を記録として残すことを目的としていましたが、編集をお願いしていた倉橋洋子理事の提案により、引退馬協会が前身の「イグレット軽種馬フォスターペアレントの会」設立からちょうど 20 周年を迎えることから、「引退馬協会の活動記録」として、20 年間の会の歩みを編纂しました。その中でもやはり、東日本大震災における被災馬支援活動の反響は大変大きなもので、支援活動中には十分に発信できなかった詳しい活動内容をお伝えすることができたと考えております。編集にあたっていただいた倉橋洋子理事、集英社インターナショナル様に感謝申し上げます。



引き続き、直販の他、JRA各競馬場のターフィーショップ、ネットショップ「ホースファクトリー」にて販売していますが、残部数がわずかのため、在庫がない場合には、引退馬協会北海道事務所 TEL 0123-76-7333 または Email にて「[otoiwase@rha.or.jp](mailto:otoiwase@rha.or.jp)」までご注文下さい。

## ⑥ ホームページリニューアル

現在、会員向け主体となっているホームページを、より広い対象に向けて情報発信を行い、新規会員の獲得やご寄付を増やすことを目的として、リニューアルする準備を進めています。また、引退馬の引き取りに関する心構えや準備などに加えて、牧場見学時のマナーについても、引退馬に関わる団体として積極的に啓発活動を行っていきます。2016年度内に公開予定でしたが、作業が遅れているため、2017年度にリニューアル完了予定です。

## ⑦ ロゴマーク入りオリジナルグッズの制作販売

トートバックS(2種)各 2000 円、トートバッグM(1種)2500 円を4月に制作し、クリアファイル、ポストカードの販売も引き続き行いました。すべてのグッズは在庫がある限り、2017年度も引き続き販売いたします。売上収入を引退馬支援活動のために使うだけでなく、オリジナルグッズをお使いいただくことが広報活動、啓発活動になりますので、ご協力をお願いいたします。



## ⑧ 「ナイスネイチャ・バースデー・ドネーション」の実施

事業計画にはありませんでしたが、ファンドレイジング(資金調達)を兼ねた引退馬の啓発活動を、4月15日のナイスネイチャの誕生日の前日から5月15日までの一ヶ月間、「ナイスネイチャ・バースデー・ドネーション」としてキャンペーンを実施しました。

「バースデー・ドネーション」とは、自分の誕生日に、プレゼントの代わりに自分が応援している団体へ寄付していただくという、近年SNSの普及により増えてきたファンドレイジングの手法で、「まずは団体について知ってもらう」、「SNSでシェアする」などの広報支援と、「寄付をする」という金銭支援の二通りから、支援する方のできる範囲で参加することができるキャンペーンです。

初の試みとなった今回、49名の方から、合計196,500円のご寄付をいただき、うち11名の方が継続寄付の申込みをしてくださりました。会員をはじめ、会員以外の方からもご寄付いただけたことは、啓発活動としても意味のあるイベントだったと考えています。多くのご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

## 3)引退馬ネット事業

引退馬ネット事業には、引退馬協会の対外支援活動全般が含まれます。単発的な相談のほか、サポートホース団体設立など長期的なサポートを行っています。

### ① 馬の引取り相談・サポート

相談してくる方に、引き取り、預託先の紹介や繋養方法などについてアドバイスしています。引き取る馬のために早めに準備する方からの相談が増える一方で、準備なく引退後に慌てて相談してくる方が後を絶ちません。啓発事業と連携して引き取る方への啓発活動を充実していく必要性を感じています。

## ② 引退馬繋養団体の引取り後の相談・運営サポート

会員受付業務や会費の入出金管理のほか、各会で日々発生する問題についてアドバイスや交渉業務を行っています。2015年から受益者負担を前提として全サポートホース団体からサポート事務手数料をいただき、引退馬ネット事業で発生する通信費や人件費などさまざまな経費に充てています。初年度だった2015年度には移行による混乱がありましたが、2016年度には新しいサポート体制も軌道に乗り、業務の効率化にもつながっています。

新団体の設立はハニーズサークル 1 件、鹿児島県のホーストラストへの預託者の保証人が1件、既存団体のサカモト・ホース・ファミリーにコスモセブン(5歳)が新たにサポートホースとして加わりました。

仮移動中の被災馬コテツ(ルーージュビクトリー)の会へは被災馬として支援をしているため後述します。

### 2016年度 新規サポートホース団体と異動

サポートホース	サポート対象	繋養先及び異動
タカラハニー	ハニーズサークル	愛知県・ナリタポニーランチ
コテツ	被災馬コテツの会	仮移動中
ジェネラルgrant	個人(保証人として)	鹿児島県・NPO法人ホーストラスト
コスモセブン(追加)	サカモト・ホース・ファミリー	北海道・静内坂本牧場



タカラハニー



コテツ



コスモセブン

## ③ その他支援依頼

被災馬コテツの会の母体である、ときがわホースケアガーデンの代表が病気療養のため、牧場への支援依頼が来ています。被災馬であるコテツに対する支援は被災馬支援基金から、牧場の所有するポニーへの飼料支援はペガサスの翼基金(スキャン基金ではありません)からの支出により12月～6月まで行っています。

この他にも、老舗の養老牧場が閉鎖となったことを受け、牧場所有馬だった馬たちの今後についての支援要請を受けています。一度は余生を保障された馬たちのはずが、突然不安定な状況を余儀なくされたことは残念でなりません。その馬たちの支援を行っていくプロジェクトの立ち上げを予定しております。時期がきましたら、支援を呼びかけますので、ご協力いただけましたら幸いです。

#### 4)フォスターペアレント(FP)事業

前身の「イグレットフォスターペアレントの会」から継続しているこの事業は、FHが終生、穏やかで幸せに元気に暮らせるように支援していただく里親＝フォスターペアレント(以下、FPと記載)制度によって、FHたちを安定していく繋養する、引退馬協会の根幹事業です。里親制度の運営、集いの場の提供、FHの預託など、FHに関わる事業はすべてFP事業となります。

2016年度には3頭が亡くなりました。トウショウフェノマは、2016年8月19日に洗い場で倒れ、心臓麻痺で急逝しました。また、2017年4月19日には、エイシンバーリンがクッシング病からくる蹄葉炎の悪化により、安楽死となりました。そして2016年12月31日には「次の馬生」支援事業により繋養していたスキャンが老衰により永眠しました。スキャンについては「派生事業」にて後述します。



トウショウフェノマ (享年 24 歳)



エイシンバーリン (享年 25 歳)

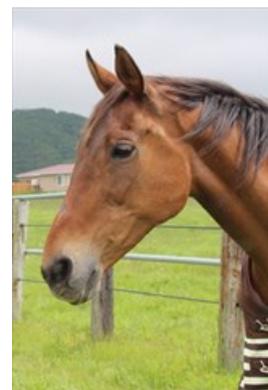


スキャン (享年 28 歳)

2017年度に入ってからではありますが、6月2日にウラカワミュキが疝痛により安楽死となりました。

終生繋養をしている以上、いつかはやってくる馬たちとの別れは、大変悲しいものですが、一頭一頭を見送ることができたということは命に対する責任をまっとうできた証であると考えています。ご支援くださった皆さまに、あらためて御礼申し上げます。

亡くなるFHがいた一方、新しいFHを迎え入れることもできました。グラールストーンの同期生であるキョウエイボーガン(28歳)、船橋競馬で頑張っていたコアレスピューマ(13歳)、そして被災馬FHの“おにくん”(11歳・のちに競走名がナイキプラネットと判明)の3頭です。



ウラカワミュキ (享年 36 歳)

キョウエイボーガンは群馬県東吾妻町の乗馬クラブアリサに、コアレスピューマは本部のある千葉県香取市の乗馬倶楽部イグレットに、“おにくん”ことナイキプラネットは福島県南相馬市の厩舎みちくさにそれぞれ預託しています。



キョウエイボーガン



コアレスピューマ



おにくん  
(ナイキプラネット)

ナイスネイチャは29歳と、FH最高齢となりました。広い放牧地にいるにも関わらずメテオシャワーとくっついて  
いる様子はとても微笑ましいです。セントミサイル(27歳)は右後ろ膝蓋骨の間接が狭くなっていることが原因で  
跛行がありましたが、ショックウェーブによる治療が効果を見せています。マザートウショウ(27歳)は歯が悪いな  
がらも元気に放牧地を走り回って過ごしています。トウショウオリオン(24歳)は年齢を感じさず、元気に過ごし、  
初の北海道ツアーでは見事な“ふれあいデビュー”をしてFHとして立派に仕事をこなしてくれました。

千葉では、22歳になったハリマブライトがFHと過ごす日で会員さん達の騎乗やお手入れなどのふれあいで  
大活躍してくれました。コアレスピューマは、引き馬デビューを果たしました。まだまだ調教過程ではありますがこ  
れからの成長が楽しみです。

近年FHの高齢化が進んでいることもあり、何かあれば早めに診察を受け、適切な処置を取ってもらうようにし  
ています。高齢化しているフォスターホースの生活の質をいかに高く維持していくかが大きな課題となっ  
てきており、高齢馬の治療や管理について、引退馬の繋養団体や支援団体等と情報を共有しあうことで高齢馬の獣医  
療が充実したものとなるよう、啓発事業として取り組んでいきたいと考えています。

FHに関わる情報発信として、FP会員には、RHA通信を発行した8月、11月、1月、5月を除く計7回、FHリ  
ポートを、郵送及びPDF版で発行しました。この他、会のホームページ内の近況報告ブログとfacebook, twitter  
を連動させ、随時、各FHの近況報告を発信しました。

「2017年FHカレンダー」は1000部制作し、フォスターペアレント会員に贈呈したほか、2015年10月から昨年  
と同じく一部800円で販売しましたが、ヤマト運輸のメール便が廃止となり、DM便になってからは送料の負担が  
倍額になってしまったため、1件の注文につき100円の送料負担をお願いしました。

被災馬FHの預託にかかる経費は、被災馬支援基金の残高減少のため2015年度からはフォスターペアレント  
事業から支出しています。コッチャン(トーセンクレイジー)は群れのボスとして、ハーモニイトセチャンはマイペ  
ースに、それぞれ元気に鹿児島ホーストラストでの生活を謳歌しています。

## 5) 協賛及び後援事業

2016年度は、実施しませんでした。

### 上記5事業から派生するその他事業

#### ①被災馬支援活動

東日本大震災から6年が経ち、譲渡された馬が戻ってきたり、引き取られた方の状況が変化してきていま  
す。2016年度も現地スタッフによる見守り活動や被災馬支援募金活動を継続し、必要に応じて飼料や獣医  
療費の支援を行い、被災馬の見守り活動を委託している脇坂南さんが立ち上げた乗馬クラブ、厩舎みちくさ  
に対して飼料代を援助しました。“おにくん(ナイキプラネット)”を被災馬フォスターホースとして迎え入れたの  
も、その一環です。

また、引退馬ネットのサポート団体、「被災馬コテツ(ルージュビクトリー)の会」の代表が病気療養のため、  
コテツは3月から繋養先のときがわホースケアガーデンから近隣の牧場へ移動しています。「被災馬コテツの  
会」の会費収入だけでは運営ができないことから、被災馬支援として預託料、去勢手術代を含む獣医療費、

馬運代等をサポートしています。コテツ自身、体が成熟するにつれて馬っけが大変強くなり、去勢手術の事前診察の結果、睾丸が通常より1.5倍程度大きいことから、手術中に開腹手術となる危険性があることがわかり、麻布大学獣医学部に移動しての手術となりました。今は傷も快復し、少しずつ体ももどってきました。「被災馬コテツの会」の代表が交代を希望していることから、しばらくは引退馬協会のもと、会が自立して預託できる施設への移動を考えています。

※被災馬の見守りのための被災馬支援基金の残高が少なくなってきました。皆さまのご協力をお願いいたします。

ゆうちょ銀行（郵便局）振替口座：

記号－番号 02760－4－69401

口座名義 被災馬支援基金（ヒサイバシエンキキン）

## ②「次の馬生」支援活動

### (1) ハッピーライフカバー配布

2016年度は、問合せはありましたが、実際の配布には至りませんでした。

### (2) 期間限定リースシステム(仮称)の整備

現在、具体的な運用について検討を続けています。

### (3) 外国産繁殖馬支援(スキャン)

日高スタリオンステーションの閉鎖により緊急措置として引き受けたスキャン号を、その後、正式に引退馬協会の所有馬として北海道新ひだか町の荒木牧場へ預託しました。スキャンはFHとしてFP会員は募集せず、「スキャンプロジェクト」として皆さまからのお寄せいただいたご寄付によって繋養しました。

荒木牧場で約一年間過ごした2016年12月31日に老衰により永眠してからは、集まったご寄付の残金を「次の馬生支援基金」(名称:スキャン基金)として管理し、今後スキャンのように行先をなくして移動を余儀なくされた馬を支援するために、用途を明確にし管理し、必要に応じて支援を行います。

## 「スキャン基金」収支報告

(2015年のプロジェクト開始からの通算です。)

収入		支出	
寄付金	2,461,009	預託料	1,020,600
共済返戻金	150,545	馬運代	10,000
		削蹄代	9,000
		獣医療費(共済掛け金を含む)	58,046
		駆虫代	5,000
		サプリメント代	17,842
		火葬代	26,410
		ペイパル手数料	13,580
合計(A)	2,611,554	合計(B)	1,160,478
残高(A)-(B)	1,451,076	次の馬生支援基金(通称:スキャン基金)として管理	

### (4) 騎馬隊退役馬支援

警視庁騎馬隊より、退役馬の引き受け先探しの手伝いの依頼を受け、譲渡された馬たちの見守りを続けています。

### ③ 引退馬連絡会

参加団体とのゆるやかな連携の中で、JRAの引退馬に関するヒアリングの際には、必要に応じて各団体と連絡を取り合ったり、高齢馬の獣医療に関する情報交換を行いました。

### ④ 根岸競馬場跡保存活動と協働による啓発活動

「NPO 法人歴史的建造物とまちづくりの会」との連携により、10月22日に横浜市根岸の競馬博物館イベントホールにて、シンポジウム「日本近代競馬150年と旧根岸競馬場」とコンサートを開催しました。西洋競馬発祥の地である根岸を引退馬に関する情報発信地にすることを目指して活動しています。



### その他の事業(営利事業)

法人税の負担に見合った収益が見込めないとして、2016年度も営利事業は実施しませんでした。

※引退馬協会は千葉(本部)と北海道(北海道事務所)の二つの都道府県に事業所があるため、千葉県と香取市、北海道と長沼町の4か所で法人税(均等割り)の支払いが発生します。

## 事務局スタッフの待遇改善

活動の持続のために働くスタッフの社会保険を9月より整備しました。給与の見直しや福利厚生などにより新たな支出が発生しましたが、活動の持続と会の安定のため、ご理解いただけますよう、お願いいたします。

## 会員データベースの整備と情報セキュリティ対策

2015年度より、引退馬協会と引退馬ネットの会員データベースの再構築ならびに寄付者管理システムの構築に取り組んでいます。それぞれの情報が多岐に渡ることから、2016年度内の完成にはいたりませんでした。2017年度にはなるべく早い時期に運用を開始する予定です。

また、皆さまの大切な個人情報をお預かりする上で、スタッフの情報セキュリティ意識の向上と対策にも積極的に取り組んでいます。

## ボランティアの活用

2016年度も多くの方がボランティアとして活動に参加してくださいました。編集やデザインなどの専門分野から、イベントのお手伝いや送付物の発送作業など、多岐にわたって多大なるご協力をいただいたことに心より感謝しております。

ご寄付とボランティアは非営利活動法人の活動を支えてくださる両輪であり、ボランティアという形で協力してくださる人材は大変貴重な存在です。これからも随時募集していきますので、ご協力くださいますよう、お願いいたします。

## 2017年度に向けて

引退馬への関心が以前より集まるようになってきた今の流れを止めないよう、引き続き、馬と人のふれあい事業、フォスターペアレント事業、引退馬ネット事業の3つの事業を根幹事業として活動を推進し、啓発活動についても積極的に行っていきます。

2017年度は、JRAをはじめとする各方面で、引退馬に対する取り組みが本格化します。多くの人が引退馬に関心のなかった時代からは想像もつかない近年の動きです。

引退馬協会が目指す「最後まで責任をもつ」ことは容易な道ではありませんが、20年間、引退馬に取り組んできた団体として、これは譲れない信念です。

2017年度は2013年に取得した「認定NPO」の更新手続きがあります。責任ある認定NPO法人の看板に恥じぬよう、透明な運営をしていきたいと考えておりますので、引き続き、皆さまのご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。